

木は1年に1回実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年、実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。

保存版

発行日 2008/12/04

3 - 5年で資金3倍化を目指して 長期投資レポートをスタートするにあたって

出島昇

本当に儲かる長期投資とは

長期投資とはふつうは5年～10年ぐらいの投資期間をいいます。しかし、その5年～10年の投資期間はどこでスタートするかによって投資と投機に分かれてしまいます。それにもかかわらず金融商品(株、投資信託など)を売る証券会社、銀行、郵貯にいたるまで、「長期に持つと今がお得ですよ」という売り方をします。長期とは、未来のことで神様以外の誰もわかりません。一昨年、昨年買った投資信託は全滅状態で「元本は割れませんか」といったものまでことごとく元本割れです。担当者の言い訳は「80年に1回の大暴落で全員が失敗しているので、しかたないですね。運が悪かったですね」で終わりです。長期投資で有名なファンドも毎年毎年「長期投資が投資の王道です」といってお客にファンドを買わせてきました。日経平均で2003年4月の7603円の大底の時にたまたまファンドを買った人は、昨年2007年3月の18000円頃には単純に計算して4年で2.4倍になっています。この時点では「それみる長期投資はすごいだろ」という話になります。但しそれは、ここで利益確定して儲けを現実のものとしていた場合に限りです。ところが長期投資の信奉者は、ここからあとさらに4年もつと5倍ぐらいになると計算します。そして保有し続け結果1年半後の今年の10/28には日経平均は6994円とスタート時点の7603円を一時割ってしまいました。

つまり、本当に儲かる長期投資とは大底圏で買ったあとは、十分な儲けが出た時に、いったん利益確定するということです。いつ利益確定するのが難しいのですが、投資家心理と逆のことができればよいのです。誰も株をなかなか買えない大底圏の時に買い(現在がそうです)、誰もが株をやり始めてニュース、雑誌などで儲かった話で花ざかりとなり、全員が強気になった時(この間は、株を少し知っていれば過熱化したテクニカル指標がいくつもでてきます)に利益確定するということです。

<いつ買うのか>

株式投資で本当に儲かるのは「何を買えばよいのか」より「いつ買えばよいのか」なのです。「いつ買えばよいのか」は「株が下がって安くなった時」つまり極端に言えば大暴落してこれまで高く買って買えなかった株が下がってバーゲンセール状態になっている時なのです。今回は、これまで株式投資をやっていない人、又、相場を休んで大きく下げるのを待っていた人にとっては、80年に1度の大暴落=80年に1度の大チャンスということになります。大底がわかれば、そこで買うことができますが、大底というのは後になって「あのときが底だったのか」となるのがふつうです。チャートの下げ方から予測できる場合もありますが、今回の下げはアメリカ発の大暴落ですので、日経平均の動きはアメリカの底打

ち次第となります。今、大手自動車3社(ビッグ3)の救済策がどうなるかでアメリカ株式はさらなる下落の可能性が残ります。オバマ政権は来年の1月20日に誕生ですので、それまではブッシュ政権にまかせることとなります。オバマ政権誕生早々には思い切った経済政策ができるとおもいますのでアメリカ株式のリバウンド相場も1月になると期待がもてます。そうすると、日経平均も連動しますので、当面の買いチャンスは12月といえるかもしれません。

< 買い方はどうするのか >

日本の場合は、アメリカの反発待ちと同時に「補正予算」待ちとなります。景気悪化を示す各種経済指標がでているにもかかわらず、麻生首相は「補正予算」を来年に伸ばそうとしています。アメリカとは関係なく、日本独自の問題として「補正予算」催促相場となって大きく下落する場面があるかもしれません。日経平均の10/28の6994円が大底となるかどうかは今のところわかりません。ただ今は、大底圏で大きな上下動となっています。このような場合の短期売買できる人の買い方は、大きく下がった時には思い切って買い、長く保有せずに上昇したら必ず売ってしまうということが必要となります。なぜならば景気後退局面での株価の動きは「前の高値を抜くことができず、直近の安値を切ってくる」というものだからです。そういう投資法は、相場をよくみている人でないとできませんので、今回の長期投資というものは、基本的には100円台の低位株の安くなったところを3回ぐらいに分けて買うという考え方をしています。1つの買いの基準は10/28に日経平均が6994円つけた日に個別株のほとんどが安値をつけていますので、その安値近辺となります。買いポイントを3つに分けると次のような考え方になります。

10/28の安値から大きく上昇したものは2番底としての狙い方

10/28の安値水準まで下げるダブル底としての狙い方

10/28の安値を切ってくるのを待つ狙い方(2002年~2003年の安値水準)

資金の余裕がある人は と買い下がること

ほどほどの資金の人は 水準を待つ

資金が少ない人は を待ってみて、買えなかったら次回の下げを待つスタンス

< 何を買うのか >

いつ買うのかの先に大切なのは、何を買うのかです。特に長期投資の場合は日本経済の産業構造の悪化にあわせて成長する企業でなくてはなりません。それは、サブプライムローン問題後のアメリカ経済、世界経済、その中の日本経済がどういう方向をたどるのかのシナリオをいくつか考えてみなければなりません。高い確率でいえるのは、欧米先進国は1982年に上昇を開始し1990年代の東西ドイツの統合、ソビエト連邦の崩壊、東側の共産圏の資本主義化、中国の経済の資本主義化によって、さらに上昇を続け昨年NYダウが10/11に14198ドルの天井圏をつけるまで上昇し続けて、今年に大暴落となったことで長期の下降トレンド入りとなったということです。その間1989年から2003年までの14年間日本のみがバブル崩壊による14年間の長期不況となっていましたので、いずれ欧米長期下降トレンド、日本は長期上昇トレンドというシナリオも考えられます。通貨をみる限り、消去法であっても日本の円が独歩高となっているのは、日本の国力が評価されているとみることもできます。日本株が下落するのは経済構造が輸出型となっているため円高がマイナスに作用していますのでしかたありませんが、これま

での輸出型一辺倒から円高転換へうまく移行できれば、日本の時代がくることになります。そういうシナリオを基本におけば、内需関連銘柄中心の銘柄選択となり、アメリカ経済の後退を考えると輸出関連(特に自動車など)は長期投資としてはむかないかもしれません。但し、アジア向けの精密機械などは別といえます。

買った株をいかにして保有し続けるか 大底圏の安藤建設で事例研究

長期投資は、忍耐との戦いです。目先の上下動を気にせずに買った株を持ち続けることができるかどうかということです。安いところで買うといってもそこが本当に大底の株価かどうかは、経済が生き物である限り(予想外の世界経済の悪化がすすみ、企業の業績が下方修正)あとにならないとわからないという側面があります。そのため大底で買ったつもりが、さらに下落するという場合もありますので、そのような株価の動きに一喜一憂せずに保有し続けることができるかどうかです。そのため、本当に長期投資を実行できる人は、買った株はタンスの中にしまって何年も気にしないで生活をします。売買を繰り返して株式投資をやっている人には、投資スタンスを完全に切り替えない限り絶対にできない投資法ともいえます。

具体的に今回買推奨していて、現在大底圏にある東証1部の安藤建設(1816)を事例研究として取り上げてみましょう。このチャートは私が使っている柴田野線というものです。週足に近い形ですのでトレンドがよく読めます。2001年12/19に90円で大底をつけました。この90円でうまく買えたとします。すると翌年(2002年)の3/22に151円をつけました。3ヶ月強で60%近くの上昇です。しかし、よるこんだのもつかの間で下げに転じて安いところでもみあい、60日後の11/19には95円まで下げました。この動きをみると、ほとんどの人が「ああ、150円ぐらいになった時に売っておけばよかった」と悔やんでしまいます。再び上昇してくると「今度150円ぐらいになったらいったん利益を確定しよう」と思い、翌年(2003年)の5/6の162円近辺で売ったとします。すると少し下がったあと4ヶ月後の9/24には198円まで上昇し、スタートからすると1年と10ヶ月で2倍以上の上昇となりました。

逆にここまで我慢して持っていた人は、さらに辛抱できればいいのですが、2ヶ月もしないうちに127円まで下げてしまいました。ここでもっと下がるかもしれないと思って、少しでも利益のあるうちにと売ってしまいました。このように長期投資というものは、その上昇の過程で大中小の大きな上下動をくり返していくものなのです。まさに、自分の心の中の欲と恐怖の戦いなのです。これを克服するには数年間相場の事は忘れることです。株の経験が少ない人はそれができるかもしれません。相場を知っている人は木(個別株)を見ないで森(全体相場)をみることです。ようするに日経平均という指数が上昇し続ける間(もちろん上下動しながらトレンドでは上へ)は低位株は水準訂正されて上昇していくこととなります。しかし、中長期の天井圏で利益確定できなければ、あつという間に急落していきます。そういうタイミングは全体相場をみていれば大体わかります。そういう全体相場の動きはアドバイスします。

<現在の相場状況と買い方>

世界的不況となった暴落相場ですので、底を打ったかどうかは現時点では判断できません。NYダウや日経平均が上昇しても、金融不安の後退や今後の政策に期待されて上昇しているだけであり、経済指標を見る限り経済実態はますます悪化しています。株価の大きな上下動は、経済実態と経済政策の綱引によるものであり、予想以上の経済実態の悪化で、ボックス圏を下放れする可能性はあります。現時点

のボックス圏は NY ダウで 7500 ドル～9600 ドル、日経平均で 7000 円～9500 円というところです。このボックス圏で上限を試し終われば再び下限に向かって下がってきますので、このレポートでの買いポイントの 1 つになってきます。理想的には、日経平均が 10/28 の安値 6994 円水準まで下げた場合がリスクは少ない買い場となります。現実には、10/28 を大きく割り込むかもしれませんし、10/28 の安値水準(7000 円前後)で止まるかもしれませんし、又は、10/28 の安値に対する 2 番底となって反発するかもしれません。買い方としては、資金的余裕があれば、今述べた 3 回のポイントで買うのがよいですが、余裕がなければ自分の性格を考えて、3 つのうちのどこかで待ち伏せとなります。それと暴落の場合の臨時レポートの時に買うということもできますが、それは、今度いつ起こるかわかりません。

<このレポートの基本的な銘柄選び>

このレポートは、低位株の長期投資が基本となります。そして、単なる長く保有すればよいというだけのレポートと違って年に 1～2 回の中期的な天井の可能性が予測できたら、いったん手仕舞いをアドバイスします。現在、上場企業もバタバタ倒産している現状ですので、倒産リスクを少なくするため東証 1 部に限定します。ふつは 100 円以下をボロ株といいますが、このレポートでは 50 円以下をボロ株とし、低位株投資の基本株価を 50 円～200 円までを基本とします。業種や銘柄としては、日本の経済が復活するためのシナリオ(円高方向とそれに伴う外需から内需へ)を想定して、内需関連、円安メリット業種、中国関連、経済政策関連から選択していくことになります。PER や配当も考慮に入れますが、それは現時点でのものであり、経済環境悪化で、下方修正が今後も相次ぐ可能性があることを考えると、それほど重視できません。倒産リスクを回避するという時点では、PBR の 1 倍以下が 1 つのポイントとなります。PBR の 1 倍以下というのはその会社が倒産しても保有資産を清算した価格よりも株価が低い状態をいいます。あとは何か技術力や商品の優位性があるのか、とかこれからのテーマ(環境関連、エネルギー関連)にあっていく銘柄を選択の基準とします。

現在は、まだ暴落相場の延長線上にあるので、今後の動きによっては、さらに良い銘柄が 100 円台に落ちてくる可能性もありますので、資金は一度に使わず、業種・銘柄を分散し 2～3 回に分けて買い、上昇したら追わずに時間をかけて下げてくるのを待つというスタンスが大切です。

大底圏での低位株の買いポイント

12/4(木)現在

業種	コード 銘柄	規模	配当	PBR	バブル後最安値	日経平均 6994 円 10/28 前後の安値	買ポイント	
鉱業	1518 三井松島 (約定済)	小型	有	1.1	2002年11/19 49円	10/28 110円	124円前後 100円前後 80円	当社(出島式投資ワールド)会員向け11/24(金)買推奨10/28に110円をつけ買い成立。11/5(木)に180円近辺利食いアドバイス再度の買い
機械	6369 トヨタ (約定済)	中型	有	0.88	2002年11/19 48円	10/28 88円	85円～95円 70円～80円 50円前後	当社(出島式投資ワールド)会員向け10/28(木)買推奨
建設	1816 安藤建設	小型	有	0.44	2001年12/19 90円	9/5 116円	110円～130円前後 100円前後 80円～90円	内需関連株で景気対策関連、住宅ローン減税関連
繊維	3103 ユニチカ	中型	有	0.71	2002年11/18 30円	11/21 56円	50円～65円 40円台 30円台	フィルム樹脂など非繊維を強化
繊維	3106 クラボウ	中型	有	0.39	1998年10/19 104円	10/27 107円	100円～125円 90円前後	繊維大手・土地の含み膨大
非鉄	5701 日本軽金属	大型	有	0.49	2001年12/13 59円	10/10 72円	70円～80円 60円前後	日本一のアルミメーカー
非鉄	5738 住友軽金属	中型	有	0.65	2001年12/18 45円	10/8 66円	60円～70円台 50円台 40円台	アルミ圧延最大手 旧財閥系
造船	7003 三井造船	大型	有	0.85	2000年3/2 56円	10/28 103円	110円～120円 80円～90円 60円台	船舶ディーゼルで最大級 旧財閥系
造船	7004 日立造船	中型	無	1.05	2002年11/18 38円	10/10 66円	60円～70円台 50円台 40円台	環境関連(ゴミ焼却炉などが柱) 機械・エネルギーも手がける
金融	8411 みずほFG	大型	有	0.93	2003年4/28 58300円	10/28 190000円	19万～22万円台 16万円台 13万円台	今回は金融恐慌相場なので将来これが落ち着けば銀行株は大きな上昇となる。20万円以下は買い下がり保有し続ける。

買ポイント

大底を打ったかどうかは現時点では誰もわからない。わからない以上、安値があることを前提に3回に分けて買うのが基本。資金が少なければ、まで待ちリスクをとりたくなければ、を待つがそこまで下げてこないかもしれない。又、買ポイントの上限(80円～100円)の100円は1つの目安ですから、どうしても買いたければ101円で買ってかまいません。しかし、110円という買い方は10%近い上昇ですから、その場合は下げてくるのを待ち、こなかったら諦めるスタンスも必要です。

規 模

資本金によって、小型株、中型株、大型株と分けられるが、規模が大きいほど倒産リスクは少ない。小型株は動き出し時に上昇率が大きいという特徴がある。

配 当

配当は、その時の相場環境と実績から実施されるので、相場環境が悪化し下方修正が続けば無配に転落することもある。

PBR

PERは配当と同じように相場環境と業績の悪化によってかわるがPBRは会社の解散価値と現在の株価との比較であり、1倍以下であれば現在の株価よりも会社の実体の価値があることを意味し倒産リスクは非常に少ない

業 種

業種は分散して買うこと。例えば、繊維という業種ではユニチカとクラボウの2銘柄を買うのではなく、自分の資金や好みにあったものを選ぶ、基本的に同一業種は同じように動きます。

(1816) 安藤建設

